



## 2024年の感染症を振り返る

あけましておめでとうございます。本年も『キッズケア青い鳥』をよろしく申し上げます。昨年12月はインフルエンザの患者さんが急増し、市内の小中学校では学級閉鎖が相次ぎました。今シーズンのインフルエンザの流行は立ち上がり早く、流行のスピードが早いようです。現在流行中のインフルエンザの型はほぼA型です。

新年を迎えるにあたり2024年の今治市での感染症の流行状況を振り返ってみたいと思います。1月はA型インフルエンザと新型コロナが同時流行の様相を呈しました。2月に入り新型コロナは少なくなり、インフルエンザの型がB型に変わりました。3月から5月にかけて溶連菌感染症の持続的な流行があり、RSV、ヒトメタ感染症の発生もありました。5月は手足口病が爆発的に流行しました。7月には新型コロナが流行しましたが、流行は一過性で終わりました。8月から9月にかけて手足口病が再び流行したあとは、10月にはマイコプラズマが、11月中旬からはA型インフルエンザの流行が始まり現在に至っています。ほとんどの感染症が過去に類をみないほどの大規模な流行でした。

### 家庭看護のポイント (2)

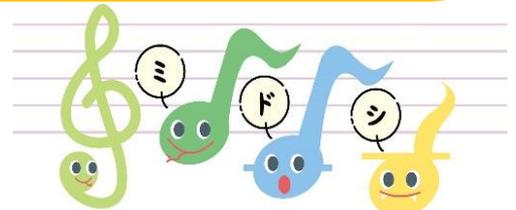
お医者さんの的確な診断をするには、親御さんから適切な情報提供をしてもらう必要があります。その大切なポイントが、観察、記録、伝達の3つです。

① **観察**：お子さんを「そのまま見る」ことです。特に、食べて、寝て、遊んで、出す(おしっこ、うんち)がいつも通りできているかを観察しましょう。

② **記録**：医師に伝えるための記録です。LINE、メモアプリ、熱型表などを利用しましょう。発疹は写真を撮っておきましょう。気になる咳がある時はスマホで録音しておくことで診断に役立つことがあります。

③ **伝達**：いつからどんな症状が、どのように経過していたかを整理して伝えるようにしましょう。

阿真京子『病院に行く前に知っておきたいこと』参照



あけましておめでとうございます

### 12月の感染症情報

A型インフルエンザが流行しました。今治市内のインフルエンザの定点報告数は、12月第1週が11.5、第2週39.7、第3週45.5と急増しました。年末年始は人の移動でさらに増えることが予想されます。型別ではほぼA型一色でした。

一方、新型コロナの定点報告数は2.0前後で推移し、流行はありませんでした。

そのほか、溶連菌感染症、感染性胃腸炎、手足口病の散発的な発生がありました。



### 12月の利用状況

12月の利用延べ人数は76人、1日平均利用人数は3.8人でした。年齢別では、1歳児と2歳児が17人で最も多く、ついで3歳児の10人でした。疾患別では急性上気道炎が35人で最も多く、ついでA型インフルエンザの27人でした。12月はインフルエンザなど高熱がでる感染症が多くみられましたが、インフルエンザは小学生以上の学童のお子さんが多く、保育所などの未就学児のお子さんについてはインフルエンザ以外のウイルス感染による風邪が多かった印象です。